

「世間のウソ」を読んで

新聞の書評から面白そうなのでを購読した。

著者によれば、ウソには、 社交辞令のウソ（ex．ご馳走になり美味しくないのに、「美味しいですね」、かな？） 皮肉というジャンルのウソ（ex．非常識な言動に困っているのに、「相変わらず、お若いですね」、かな？） その場の雰囲気を作り出すウソ（ex．授業中の居眠りがばれて、「二度としません」、かな？） 特定の組織や誰かを守るため、飾るためのウソ（ex．兄弟をかばうために、「お茶碗割ったのは、自分です」、かな：一般的にウソと云われるものは、この範疇のウソよう） 世間を誤らせる構造的なウソ（大量破壊兵器があるからと始めたイラク戦争、など）の5種類あるという。

著者は、もっぱら 世間を誤らせる構造的なウソ（宝くじの確率、鶏インフルエンザ騒動、裁判員制度、イラク戦争、回転ドア事件、等々）を、デ・タ、確率、そして事実で暴いていく。

そして、公的機関（国家、行政、警察、等々）の発表を検証もせず「一点突破全面展開」に荷担するマスコミを、報道記事内容の事例を挙げて断罪している。痛快といえば痛快な本であった。

しかし、この本に記載されているような、報道の裏にあるデ・タ・情報は、どこでどう手に入れればいいのか、また、ウソと見抜くにはどうすればいいのかという疑問も湧いてきた。それだけに、この本がベストセラ - になっているのかもしれないが.....。

今の世の中、膨大な情報社会、情報公開社会と云われながら、案外、肝心な情報は、ひょっとすると気づかず、読めず、自分の前を素通りしているのかなあ。報道、情報の裏を読めるように、自己責任で、デ・タを集める！デ・タに気づけ！デ・タを読め！ということになるのかなあ。

また、例えば、ある遊具で幼児が事故死すると、全国の公園から同遊具が姿を消すような最近の「一点突破全面展開」風潮は、どうしたものか。

もの事には、メリット、デメリットはあるもの。一点のデメリットで、全面的にデメリットだけが展開される風潮が蔓延する社会は、空恐ろしい気さえする。